

緑肥作物の導入と効果—Ⅱ

蔬菜類への緑肥作物

千葉研究農場

兼子達夫

■ 緑肥作物の栽培とすき込み

冬期休閑期および夏期の無作付期に緑肥作物を栽培し、多量に生産し、これを省力的に刈り取り、すき込むことである。

麦類……………9月播種→12月すき込み〈エン麦、大麦〉……………生草量2～3ト/10a
……………10～11月播種→3～4月すき込み〈ライ麦、エン麦〉……………生草量4～6ト/10a

● 播種法は密条播または散播

● 播種量は7～10^キロ/10a

トウモロコシ……………5～7月に播種、生育日数50～60日……………生草量7～10ト/10a
倒伏に強い品種、スノーデント2号、パイオニア2号が最適品種

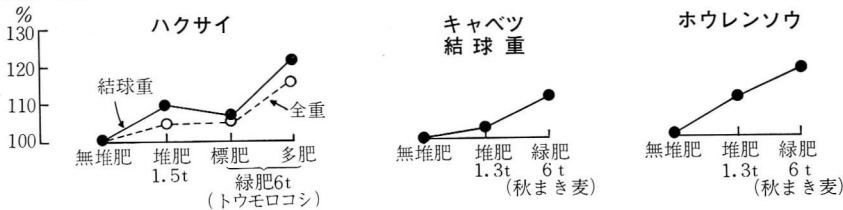
● 播種法は畦幅30cmの条播または散播

● 播種量は7～10^キロ/10a

- トラクターのフォーレージハーベスターで刈落し、2段耕犁ですき込めば早い。また大型トラクターを用いれば、立毛のまますき込みができ、播種、定植前に再び耕起整地すればよい。
- すき込み後日数の経過が少ないと作物に障害がみられることがあるので、少なくとも1カ月以上おいてから播種、定植をする。緑肥作物の分解を促進するため、すき込み時に石灰窒素を散布するのが効果的。また施肥量は多めに施すとよい。

■ 葉菜類は生育旺盛となり10～20%増収

ハクサイ、キャベツ、ホウレンソウなど葉菜類は、緑肥作物（トウモロコシ、麦類）のすき込みによりいずれも増収する。



■ 根菜類は緑肥作物すき込み2年目に増収

ダイコン、ニンジン、サトイモ、食用カンショなど……………

緑肥作物すき込み1年目は茎葉が繁茂し根部収量は減少しやすい。

緑肥作物すき込み2年目は、根部が肥大し増収する。

青刈りトウモロコシ連用2年目の増収効果(堆肥区に対する指数)

千葉県農試

作物 (品 種 名)	サトイモ (土 重)	食用カンショ (高系14号)	パレイショ	落花生 (テコナ)	ショウガ (在 来)
堆肥区(1.3t/10a)	100%	100%	100%	100%	100%
無堆肥区	94	97	95	91	92
トウモロコシすき込み区(6t/10a)	106	106	113	106	121